

唐三彩と奈良三彩

これら 2 つの陶器の壺は似ているように見えるかもしれませんが、一つは日本起源で、もう一つは中国起源のものです。大胆な配色は鉛系釉薬を用いて生み出されました。日本の壺は、8 世紀に製作された模造品の三色焼き(中国語で三彩として知られる)の現存最古の事例です。もう一つは 7 世紀の唐代(618-907 年)起源のもので、中国各地の古墳から発見されたものと似ています。奈良三彩と呼ばれるこの国産の壺は、中国の技術に日本の銅緑釉薬を組み合わせたもので、中国の技術がどのように取り入れられたかを示しています。